

令和4年度

成田山文化財団年報

第14号

成田山仏教図書館
成田山靈光館
成田山書道美術館

目 次

成田山仏教図書館	1
概要	
令和4年度事業報告	
令和5年度事業予定	
寄贈図書	
成田山霊光館	9
概要	
令和4年度の活動	
収蔵資料・利用状況	
博物館実習・寄贈図書	
令和5年度の展示予定	
研究報告	
日本歴史地理研究会の研究旅行	矢嶋毅之
〔資料紹介〕市川團十郎関係資料	猪岡萌菜
成田山書道美術館	19
概要	
令和4年度事業報告	
展示事業・展示要旨・入館者数・普及事業	
収蔵資料・寄贈作品資料・貸出作品・寄贈図書	
令和5年度事業予定	
寄附金のお願い	30
案内図・利用案内	31

成田山仏教図書館

概要

当館は、成田山中興第15世貫首石川照勤僧正により、明治34年（1901）1月、時の文部大臣松田正八氏へ設置の届け出を済ませ「私立成田図書館」として設立、翌35年2月11日に開館された。

初代館長であった石川照勤は、設立開申書の中で「私儀コノ度公衆ノ閲覧ニ供センガ為メ内外ノ図書ヲ蒐集シ私立成田図書館ヲ設置仕候条此段及開申候也」と記し、この設立の精神は、「成田山の宗教的使命達成と、地方文化向上のため」「我が国の精神文化の向上のため」である、としている。



① 旧成田図書館

時代と共に老朽化・狭隘化した本館は、昭和59年10月に「市立成田図書館」が開館されたことにより、その任を譲り、昭和63年の全面改築を機に「成田山仏教図書館」と館名を変更し、蔵書の特異性に鑑み専門図書館として運営されることとなり、今日に至っている。



② 成田山仏教図書館

蔵書の公開

図書館のホームページより、全蔵書（雑誌・研究紀要論文・雑誌論文を含む）を検索可能とし、タイトル数にして約80万件のデータベースとなっている。

ホームページURL <http://naritasanlib.jp/>

令和4年度事業報告

1. 職員

兼任2名（館長、総務課長）
常駐2名（司書1名、事務職員1名）

2. 利用状況

来館総数 1,422人
（一般／1,103人・学生／319人）
開館日数 269日
蔵書利用冊数 5,383冊
ホームページ利用者数 146,531人
蔵書検索アクセス総数 2,634,091件

3. 資料購入

図書 72種
新聞・雑誌（年間購読） 80誌

4. 現在蔵書数

3月末現在 337,023冊（除雑誌）
前年度比 1,967冊増

主な事業

1. ウェブ公開データ随時修正更新作業

2. 図書購入

仏教書を中心とする書籍、全集などの継続図書、既に所蔵する雑誌の欠本補充分を主に購入。

3. 資料保存

破損本の再製本、雑誌の合本製本、和装本、巻物類等の帙及び桐箱作製など。

4. 蔵書配架整備

配架スペースに入りきれなくなった図書の配架移動調整。

令和5年度事業予定

1. 職員

兼任2名(館長, 総務課長)
常駐2名(司書1名, 事務職員1名)

2. 開館日

火・土の2日間を通常開館、水・木・金・日
を予約閲覧日とする。自習等の閲覧室利用
は、予約閲覧日も利用可。

3. 昭火文庫、整理作業

大本山成田山新勝寺中興第21世貫首大僧正
橋本照稔大和尚蔵書を「昭火文庫」として整
理。

4. ウェブ公開データ随時修正更新作業

5. 図書購入

仏教書を中心とする書籍、全集などの継続
図書、既に所蔵する雑誌の欠本補充を主に
購入。

6. 資料保存

破損本の修復、再製本、雑誌の合本製本、
和装本、巻物類等の帙及び桐箱作製など。

寄贈図書・資料

次の方々より、貴重な図書・資料をご寄贈頂
きました。ここに厚くお礼申し上げます。

令和4年4月～令和5年3月
(団体機関・個人 順不動)

図書、資料名・巻号	寄贈者
大原幽学記念館報告 8	旭市教育委員会
誇れる国、日本-謀略に! 翻弄された近現代 15	アパグループ
池上 58-4~59-3	池上本門寺
市立市川歴史博物館館報 R2年度	市川歴史博物館
伊能忠敬記念館年報 23	伊能忠敬記念館
伊能忠敬研究(「伊能図探求」継承 季刊「史料と伊能図」) 97~99	伊能忠敬研究会
図書 880~891	岩波書店
印西の歴史 13	印西市
印度学宗教学会論集 48	印度学宗教学会

稲 通10~通15	槍田良枝氏
傘松 943~954	永平寺
円覚 338~341	円覚寺派宗務本所
大倉山論集 68	大倉精神文化研究所
大谷大学研究年報 74	大谷学会
大谷学報 101-1,2	同上
歌舞伎を読む 念の巻 敵討ちの裏表	大矢芳弘氏
三井寺 198~203	園城寺
企画展示図録 明治天皇と春日部-巡幸・御獵場・梅田ごぼう-	春日部市郷土資料館
ハワイのひみつ	株式会社Gakken
音楽の著作権のひみつ	同上
青少年赤十字のひみつ	同上
のどのひみつ	同上
シッピーとせんいんさん	同上
電気を安全に使えるひみつ	同上
税金のひみつ	同上
(学研まんががよくわかるシリーズ特別編)	同上
住宅塗装のひみつ	同上
-美しくて長持ちする光触媒塗料-	同上
お金のひみつ [新版]	学研プラス
ALT(外国語指導助手)のひみつ	同上
ボイラーのひみつ	同上
SDGsのひみつ	同上
食品トレーのひみつ	同上
情報通信のひみつ	同上
プレス加工と溶接のひみつ	同上
カプセルトイのひみつ	同上
記念写真のひみつ	同上
下総散策抄-取手で暮らした三十年-	加藤定彦氏
民具マンスリー 55-1~12	神奈川大学日本常民文化研究所
歴史と民俗 39	同上
(神奈川大学日本常民文化研究所論集 39)	同上
神奈川近代文学館 156~159	神奈川文学振興会
	神奈川近代文学館年報 R3年度
	同上
金沢文庫研究 348,349	金沢文庫
神の光 1139~1148	神の光社
川崎大師教学研究 紀要 7	川崎大師教学研究
	川崎大師だより 733~744
	川崎大師平間寺
お大師さまとともに 51	同上

笠間史談 13 川俣正英氏
 汲古 81,82 汲古書院
 真宗文化－真宗文化研究所年報－ 31
 京都光華女子大学真宗文化研究所
 京都女子大学宗教・文化研究所 研究紀要 36
 京都女子大学宗教文化研究所
 清水 225～227 清水寺
 生命之光 830～841 キリスト聖書塾
 金峯山時報 664～675 金峯山時報社
 修験道 105～107 金峯山修験本宗宗務庁
 拔萃のつづり 82 熊平製作所
 くらま 95-4～96-3 鞍馬寺
 ちばで見る電車&飛行機 3～14 京葉銀行
 千葉県成田市宗吾二丁目遺跡－第2次調査
 第1地点発掘調査報告書 原史文化研究所
 地獄と娑婆のお地藏さん
 (ひろさちや仏教名作選2) 佼成出版社
 仏の世界と輪廻の世界
 (ひろさちや仏教名作選3) 同上
 こだわりと情熱!かちわり氷
 (まんが社会見学シリーズ16) 講談社ビーシー
 興福寺仏教文化講座要旨 458～467
 興福寺教学部
 メシアの法－「愛」に始まり「愛」に終わる－
 幸福の科学出版株式会社
 地獄の法－あなたの死後を決める「心の善悪」
 同上
 高野山 25～36 高野山真言宗
 『弁顕密二教論』の研究
 (高野山大学 密教文化研究所紀要 別冊)
 高野山大学密教文化研究所
 高野山大学密教文化研究所紀要 35 同上
 JICA MAGAZINE 6～11 国際協力機構
 国際仏教学大学院大学研究紀要 26
 国際仏教学大学院大学
 仙石山仏教学論集 13 同上
 STUDIA PHILOLOGICA BUDDHICA
 MONOGRAPH SERIES 39,40
 国際仏教学大学院大学附置国際仏教学研究所
 BULLETIN OF THE INTERNATIONAL
 INSTITUTE FOR BUDDHIST STUDIES 4
 同上
 いとくら 11 国際仏教学大学院大学
 日本古写経研究所研究紀要 7
 国際仏教学大学院大学附置日本古写経研究所

国立国会図書館月報 732～743
 国立国会図書館
 富嶽 FUGAKU 219～221 心の文化研究所
 国家学会雑誌 135-5・6～136-1・2 国家学会
 日本文化研究 15
 駒沢女子大学日本文化研究所
 駒沢大学禅研究所年報 34 駒沢大学禅研究所
 駒沢大学禅文化歴史博物館紀要 5,6号
 駒沢大学禅文化歴史博物館
 書でたどる良寛の足跡 駒沢大学禅文化歴史博
 物館企画展 同上
 駒沢大学仏教学部論集 53 駒沢大学仏教学部
 駒沢大学仏教学部研究紀要 81 同上
 虚空 63,64 小宮一雄氏
 わかば 888～898 金光教少年少女会連合本部
 歴代名人打碁大系 本因坊丈和全集, 本因坊
 秀和全集, 本因坊秀策全集, 本因坊甫全集
 近藤玲子氏
 新井白石研究のための貴重家系図集 坂井昭氏
 鹿野山ノート 同上
 月刊 嵯峨 1086～1096
 嵯峨御所大覚寺嵯峨御流華道総司所
 図書館報 光丘 161 酒田市立中央図書館
 風媒花 35 佐倉市教育委員会
 里見氏研究 創刊号 里見氏研究会
 古寺巡礼 京都南山城の仏たち 佐脇貞憲氏
 南山城の古寺 同上
 三康文化研究所年報 53 三康文化研究所
 三康文化研究所所報 57 同上
 思郷－伊藤左千夫記念短歌大会詠草集 続編
 山武市教育委員会
 遊行 220～223 時宗総本山宗務所
 四天王寺 808～813 四天王寺
 斯道文庫論集 57 斯道文庫
 東京国立博物館所蔵 板碑集成 柴田徹氏
 芝山町埋蔵文化財調査報告書 11,12
 芝山町教育委員会
 練馬といえば!大根－練馬大根いまむかし－
 石神井公園 ふるさと文化館
 いま、読み解かれる「大念寺日鑑」
 －地域社会と福祉－ 淑徳大学アーカイブス
 淑徳大学研究紀要(総合福祉学部・コミュニ
 ティ政策学部) 56
 淑徳大学総合福祉学部・コミュニティ政策学部

千葉県の歴史（県史 12）	同上	近代日本の形成	同上
旗本（日本歴史叢書）	同上	日本文化史序説	同上
部落問題論（原田伴彦著作集 4）	同上	近現代史のなかの 日本と朝鮮	同上
戦国人名辞典 増訂版	同上	近世宿駅の基礎的研究（付表・付図）	同上
誹風 柳多留 7	同上	階級闘争の歴史と理論 1～3	同上
明治の文化（日本歴史叢書）	同上	房総諸藩録	同上
女性史研究入門	同上	ふるさと千葉県の民話	同上
原典による近世農政語彙集	同上	日本経済史 第二版	同上
東京教育大学文学部－栄光と受難の三十年－	同上	千葉県の百年（県民100年史 12）	同上
日本人の「家」と宗教（日本人の行動と思想 27）	同上	一向一揆と真宗信仰	同上
日本古代の国家と仏教（日本歴史叢書）	同上	野田の醤油史	同上
日本近代国家の形成（日本歴史叢書）	同上	朝鮮人強制連行の記録	同上
戦後の歴史学と歴史意識	同上	近世絵図と測量術	同上
近世の庶民文化	同上	都市の歴史 日本編	同上
きき書き六万石の職人衆－相馬の社会史－	同上	被差別部落の伝承と生活	
（刀水歴史全書 12）	同上	－信州の部落・古老聞き書き－	同上
概説日本史	同上	学説批判 明治維新論	同上
維新の構想と展開（日本の歴史 20）	同上	現代を生きる歴史科学 1	
大塩平八郎	同上	－現実からの提起－	同上
明治維新の敗者と勝者	同上	近世社会論（日本史講座 6）	同上
江戸の賤民	同上	仏教 15	同上
世界 484	同上	江戸文学俗信辞典	同上
部落史の研究 前近代編	同上	朝鮮日々日記・高麗日記－秀吉の朝鮮侵略とその歴史の告発（日記・記録による日本歴史叢書	
徳川の平和（江戸とは何か 1）	同上	近世編 4）	同上
徳川 of 政治と社会（江戸とは何か 2）	同上	近世部落史の研究 上下	同上
史学雑誌 111-6	同上	古典基礎語辞典	同上
町方書上・寺社書書上 細目（旧幕引継書目録）	同上	竹田市立図書館・竹田市立歴史資料館所蔵	
千葉県の歴史 45	同上	古資料目録	同上
佐倉市史研究 9	同上	市令録 1～3（中津藩史料叢書）	同上
市川市近世史料集	同上	視聴草 全16巻（内閣文庫所蔵史籍叢刊 特刊2）	同上
鎌ヶ谷のあゆみ 三訂版	同上	藩鑑 全16巻（内閣文庫所蔵史籍叢刊 特刊3）	同上
房総の郷土史 17	同上	寛永寺及び子院所蔵文化財総合調査報告 上	同上
民俗宗教 1	同上	時を超えて語るもの－史料と美術の名宝－	
部落解放 6	同上	（東京大学史料編纂所史料集発刊100周年記念）	同上
葬儀の歴史	同上	三宅山御鹿狩絵巻	同上
近世物価史研究	同上	江戸風俗図絵集 上下	同上
日本地主制史研究	同上	出光美術館蔵品図録 風俗画	同上
齋藤月岑日記 2～4（大日本古記録）	同上	近世子どもの絵本集 江戸篇・上方篇	同上
京都市姓氏歴史人物大辞典		宸翰英華 全4冊	同上
（角川日本姓氏歴史人物大辞典 26）	同上		
近世刑事訴訟法の研究	同上		
続・千葉県の民話	同上		

一步先を歩こう－鈴木道雄物語－スズキの生みの親・鈴木道雄の夢を追いかけた人生 (公財)鈴木道雄記念財団 月刊 ひかり 746～757 西山浄土宗 西山禅林学報 33 西山禅林学会 平和のための宗教－対話と協力－ 14 世界宗教者平和会議日本委員会 WCRP [WORLD CONFERENCE ON RELIGION AND PEACE] 509～520 同上 上毛野の古代仏教 関口功一氏 全国珠算新聞 653～658 全国珠算教育連盟 浅草寺日記 42巻 補遺編 2 浅草寺教化部 浅草寺 699～708 同上 浅草寺仏教文化講座 66 同上 るりの光 242～244 総本山一畑寺 弘法大師御誕生一千二百五十年記念 お大師様－足跡とおことば－ 総本山善通寺 仁和 100～102 総本山仁和寺 コミュニティ 168,169 第一生命財団 ポスター[POSTURE] 49 同上 かがみ 52 大東急記念文庫 跳龍 74-4～75-3 大本山総持寺 宗報大覚寺々報 大覚寺 780～791 大本山大覚寺 はなびら 115～118 同上 大雄 166～169 大雄山最乗寺 高尾山報 699～710 高尾山薬王院 惣五郎はいかに語られたか 滝口昭二氏 館山市立博物館報 ミュージアム発見伝 96 館山市立博物館 玉藻 1094～1104 玉藻社 智山学報 通85 智山勸学会 智青 236～239 智山青年連合会 現代密教 31 智山伝法院 千葉市立郷土博物館 研究紀要 28 千葉市立郷土博物館 ひまわり倶楽部 R4.6 ちばぎん総合研究所 重要文化財 神野寺表門保存修理(災害復旧) 工事報告書 千葉県 千葉県文化芸術推進基本計画 同上 千葉県文化芸術推進基本計画 令和4年度～6年度)概要版 同上 千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告 第43集 千葉県教育委員会 千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告 45 東金市道庭遺跡 同上	千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告 42 成田市久米砦遺跡 同上 千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告 44 流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書 8 同上 千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告 46 柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書 9 同上 第28回(令和3年度)千葉県建築文化賞表彰作品集－ 千葉県建築士会 千葉県の図書館 2022 千葉県公共図書館協会 図書館実態調査の分析報告 同上 千葉県詩集 55 千葉県詩人クラブ 千葉県統計年鑑 R3年版 千葉県総合企画部統計課 千葉県勢要覧 R3年版 千葉県統計協会 指標で知る千葉県－千葉県統計指標－ 2022 同上 企画展 房総教育志－明治を生きた先生たち－ 千葉県文書館 令和4年度企画展 関東塩ものがたり 千葉県立関宿城博物館 千葉文化 254 千葉県立中央図書館 海鳥とめぐる房総半島の旅 千葉県立中央博物館 海の生きもの観察ノート 16 千葉県勝浦沖キンメ場の魚 同上 生態園観察ノート 22 生態園のシダ 同上 千葉県立中央博物館研究報告 16-1 同上 バラのすべて 令和3年度特別展 同上 おはまおり－海へ向かう神々の祭－ (令和4年度 秋の展示) 同上 しあわせ 531～533 千葉県労働者福祉協議会 千葉いまむかし 35 千葉市教育委員会 ふみくら 201～204 千葉市文庫連絡協議会 チベット文化研究会報 176～178 チベット文化研究所 茶屋四郎次郎記念学術学会誌 12 茶屋四郎次郎記念学術学会 CANDANA 53-1～4 中央学術研究所 中央学術研究所紀要 51 同上 生きがい研究 28 長寿社会開発センター 哲学・思想論集 47 筑波大学人文社会科学部研究科哲学・思想専攻
---	---

さぬきの偉人空海「弘法大師」諡号奏請の僧
ふるさと鶴尾に生まれたかんげんさん
鶴小観賢学習支援委員会

天台学報 64 天台学会
転法輪 187 転法輪寺
東京大学史料編纂所研究紀要 32
東京大学史料編纂所
東京大学史料編纂所報 57 同上
仏教文化 61 東京大学仏教青年会
東北大学文学研究科研究年報 71
東北大学大学院文学研究科
東洋学研究情報センター叢刊 34
東洋学研究情報センター
国際禅研究 9 東洋大学東洋学研究所
東アジア仏教学術論集 国際シンポジウム
「近代化は仏教をどう変えたのか」 10 同上
文学論藻 97
東洋大学文学部日本文学文化学科
公益財団法人 東洋文庫年報 2020年度
東洋文庫
東洋文庫書報 53 同上
岩崎文庫貴重書書誌解題 10 同上
西蔵仏教宗義研究 1 (改訂版) 同上
読書推進運動 653~663 読書推進運動協議会
図書館車の窓 123~124
「図書館車の窓」編集室
わかりやすい土地読本-未来のための土地活用-
土地情報センター
特別展示 近代真宗「女性教化」の諸相
中西直樹氏
めぐみ 153~155 中山身語正宗伝道出版部
名古屋成田山 814~825 成田山大聖寺
成田市の文化財 53-旧大栄町の地名-
成田市教育委員会
成田市史研究 46 同上
成田市内遺跡発掘調査報告書 R2年度 同上
成田商工会議所だより 138~140
成田市商工会議所
広報なりた 1456~1479 成田市役所
成田市統計書 R4年度 同上
書物からみる刀の魅力-西尾市岩瀬文庫企画展
西尾市岩瀬文庫
特別展 三河大浜騒動150年~近代化の光と影
同上
移動美術館2022 もじもえもじも 同上

西尾市岩瀬文庫企画展 古城-失われた城の記
同上
雙松通説 28
二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢学研究センター
日本漢学研究 17 同上
津波はこのように旭の海岸に押し寄せてきました
(旭市防災資料館 展示パネル解説資料)
改訂第8版
2011年旭市の津波被害を記録する会
正法 171 日蓮宗新聞社
日展ニュース 181~183 日展
日本学士院紀要 76-3,77-1,2 日本学士院
日本貨幣カタログ 2022 日本貨幣協同組合
弘道 1137~1142 日本弘道会
新訂 食品衛生責任者ハンドブック 第2版
公益社団法人 日本食品衛生協会
PATIPADA (パティパダー) 29-1~29-11
日本テラワダ仏教協会
積尊祝祭日ウェーサーカ祭祝福法話集 同上
庄屋の女房 増支部経典アヌルダ経より
同上
成功者は死を認める-人生設計は死を中心に-
同上
季刊 iichiko QUARTERLY
INTERCULTURAL 154~157
日本ベリエールアートセンター
密教学研究 54 日本密教学会
月刊 人間 604~612 人間社
念法時報 2022~2056 念法時報社
鶯乃声 97-4~98-3 念法真教
野田市史研究 32 野田市
まちおこしは総力戦で挑め! 小田原発「地域
創世のカギはSDGsにあり」 P H P 研究所
比叡山時報 806~817 比叡山時報社
白光 69-4~70-2 白光真宏会
豊山教学大会紀要 50 豊山教学振興会
常照 [仏教大学図書館報] 69
仏教大学付属図書館
桑門秀我著 選擇本願念佛集講義
後編 (巻下本・巻下末)
佛教大学法然仏教学研究センター
仏教文化学会紀要 31 仏教文化学会
宗教年鑑 R4年版 文化庁宗務課
宗務時報 126 同上
法学協会雑誌 139-3~140-1 法学協会

- 千葉県警察史 2～6巻 某氏
 歴代幹部名簿 同上
 千葉県警察職員殉職者顕彰録 同上
 浄土 88-3～89-2 法然上人鑽仰会
 聖徳 248～249 法隆寺教学部
 無上道 880～891 法華宗宗務院
 楨 45 楨の会
 松戸市立博物館年報 29 松戸市立博物館
 目ざめよ！ 102-1～3 松本阿佐子氏
 ものみの塔－エホバの王国を告げ知らせる－
 142-1,6,11,143-5,144-5 同上
 妙音 771～782 妙音新聞社
 花園 72-2～73-3 妙心寺派宗務本所
 正法輪 72-4～73-1 同上
 ミルククラブ 135,136 ミルククラブ
 山里の思い出、村の記憶 房総の長屋門1695
 探訪・写真資料集 II 民家・長屋門研究会
 懺悔 無涯弘道氏
 川蒸気船銚港丸の誕生とその終焉
 －船主吉岡七郎の活躍－ 村越博茂氏
 吉岡まちかど博物館開館10周年記念誌
 －小さな市民団体による保存・修復・活用の10年－
 同上
 平成29・30年度寺子屋吉岡と明治前期の木下街道
 同上
 「偵察録」等からみる明治10年代、木下の繁栄
 同上
 ホンモノにふれる真説般若心経
 (サンスクリット原典訳) 村田佳次郎氏
 MEIKAI UNIVERSITY JOURNAL OF
 HOSPITALITY AND TOURISM 16
 明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部
 小説 十字架の女 1～3, 素木十吾氏
 薬師寺 212～215 薬師寺
 令和3年度八街市郷土博物館誌上企画展
 “やちまた”の偉人 前山清一郎
 八街市教育委員会
 市制施行30周年記念誌 写真にみる八街の150年
 同上
 宇宙 通386～通389 山岡記念文化財団
 無盡燈 454～465 大和山出版社
 続祐天寺史資料集 第1巻 祐天寺
 写真に見る四街道の歴史 「四街道市の歴史」
 別編1 市制施行四〇周年記念誌 四街道市
 立正大学文学部研究紀要 38 立正大学
- 立正大学文学部論叢 144 同上
 立正大学人文科学研究所年報 59 立正大学
 立正大学 仏教学論集 39
 立正大学大学院仏教学研究会
 瓦塔と瓦堂－立正大学博物館第15回企画展－
 立正大学博物館
 立正大学博物館 館報 万吉だより 34 同上
 立正大学博物館年報 20 (令和3年度) 同上
 大崎学報 177,178 立正大学仏教学会
 月刊 リベラル・タイム (LIBERAL TIME)
 22-5～23-4 リベラルタイム出版社
 龍谷大学論集 498 龍谷学会
 龍谷史壇 154,155 龍谷大学史学会
 龍谷史壇 155 同上
 仏教史研究 61 龍谷大学仏教史研究会
 和光 237,238 臨済宗建長寺派宗務本院
 あした21 877～888 霊友会
 明法 816～827 同上
 霊友会史年表 5,DVD 同上
 歴史研究 通699～通708 歴史研究会

成田山靈光館



1. 概要

当館は、昭和22年（1947）5月3日に財団法人成田山文化財団の運営のもと、成田山の宗教的使命達成と地方文化の向上を目的として創立された歴史博物館である。その前身は、昭和3年6月に社会教育機関として創設された成田山新更会で、戦後まもなく組織ならびに建物等を改組して設立された。昭和46年7月には県内5番目となる登録博物館の指定を受けた。

現在の建物は昭和58年7月に新築されたもので、その翌年建立された平和大塔1階の靈光殿も共通施設として使用されたが、平成16年（2004）3月には展示施設は本館だけとなった。そして同21年4月からは、靈光殿および成田山書道美術館2階特別展示室で企画展を開催している。職員は下記の通りである。

館長 田中 照広（兼任）
総務係長 矢嶋 毅之
学芸員 猪岡 萌菜

2. 令和4年度の活動

〔展示〕

靈光殿では常設展示「成田山の歴史」をおこなっている。展示は成田山の創建から江戸時代までを対象に、成田山の創建・成田山の興隆・成田山の開帳・成田山と市川團十郎・成田詣とし、資料や写真パネルを通じて紹介している。以下、靈光殿で開催した企画展の概略を記す。

【靈光殿】

節句の人形 2/25 - 4/10

子どもの健やかな成長や幸せを願って飾られる雛人形と五月人形。当館所蔵品からこれらを紹介した。

靈光館所蔵絵画展 4/16 - 6/12

浮世絵や日本画コレクションの中から、季節や時事にちなんだ作品を紹介した。

成田山の算額 6/18 - 9/4

成田山に奉納された算額と関連資料を公開した。県立長生高校の協力で、算額の問題の詳しい解法も紹介。

靈光館所蔵鉄道資料展 9/9 - 12/18

令和4年は明治5年（1872）新橋・横浜間に鉄道が開通して150年にあたる。成田山の発展にも鉄道は絶大な効果をもたらした。今回は鉄道開通150年を記念し、当館の収蔵品の中から、鉄道に関連する資料を一挙公開した。

参道いまむかし 1/1 - 2/26

成田参詣の楽しみのひとつとして、参道の景観は欠くことができない。時代とともに変わる参道景観と成田参詣の歴史を、絵葉書や絵図を通して概観した。

【書道美術館】

十三代目市川團十郎白猿襲名記念 成田屋市川團十郎の書と絵画 1/1 - 2/12

十三代目市川團十郎白猿の襲名を記念し、当館所蔵資料および市川團十郎家所蔵資料の中から、直筆の書と絵画を一堂に会し、歌舞伎の大名跡であるだけでなく、それぞれの時代の一級文化人としての代々の團十郎の姿を紹介した。

3. 収蔵資料

令和4年度において寄贈または購入により受け入れた資料は233点。主な資料は以下の通り。

〔購入〕

- ・歴史資料「八代目市川團十郎扇面」
(江戸期・八代目市川團十郎筆)
- ・歴史資料「大日本鉄道線並各国旅行便覧」
(明治33年)
- ・歴史資料「福岡 成田山」(昭和期・絵葉書)
- ・歴史資料「成田山靈験記」(明治18年)
- ・歴史資料「広告絵葉書 成田山出開帳」
(昭和26年)

- ・歴史資料「成田幼稚園落成式記念」
(明治39年)
- ・歴史資料「成田山蚕影山参詣道中記」
(明治37年)
- ・歴史資料「八代目市川團十郎御名残口上」
(嘉永2年)
- ・美術資料「東都深川八幡宮於社地 成田山不動尊開帳群集図」
(安政2年・三代目歌川豊国筆)

〔寄贈〕

- ・歴史資料「中興第22世貫首 岸田照泰晋山記念資料」
(令和4年)
- ・歴史資料「成田山中興第18世貫首 荒木照定胸像」
(昭和期)
- ・美術資料「獅子図屏風」(江戸期・高嵩谷筆)

4. 利用状況

〔調査など〕

- ・国学院大学大学院出口颯氏、戦前期の史料の調査のため来館 (5/17)
- ・佐倉高校金光康佑氏ほか生徒8名、算額および和算関係資料見学のため来館 (6/26)
- ・国学院大学大学院出口颯氏、史料調査のため来館 (8/16)
- ・千住文化普及会櫛原文夫氏、成田山出開帳について問い合わせのため来館 (8/18)
- ・成田市坂本氏、長沼区有文書について問い合わせのため来館 (8/21)
- ・軽便鉄道を考える会岡野肇氏、成宗電車の写真について問い合わせのため来館 (8/26)
- ・民衆思想研究会11名、資料見学のため来館 (8/27)
- ・福沢研究センター都倉武之氏他3名、長沼区有文書調査のため来館 (9/1)
- ・エリート情報原正彦氏、軽便鉄道について問い合わせのため来館 (11/19、26、29)
- ・東京大学大学院中村駿介氏、門前町について調査のため来館 (11/29、12/27、3/9、10)
- ・読売新聞成田支局萩原凱氏、昔の参道について取材のため来館 (12/1、23)
- ・千葉高校渡辺氏、長沼事件について問い合わせのため来館 (1/5)
- ・岐阜女子大学木村涼氏、市川團十郎関係資料調査のため来館 (2/16)

〔貸出・提供〕

- ・フジテレビ「めざまし8」(令和4年6月3日放送)へ、「初代市川團十郎の図」「七代目の勧進帳」「くらべ牡丹 八代目市川團十郎」の画像使用を許可 (6/2)
- ・NHK「浮世絵ミステリー」(令和4年8月26日放送)へ、「火消千組の図」の画像使用を許可 (6/8)
- ・一宮町教育委員会発行『上総広常とその時代』(令和4年10月末刊行)へ、「上総介広常の図」の画像掲載を許可 (6/21)
- ・成田羊羹資料館第38回企画展「成田と歌舞伎役者絵展」(令和4年10月1日～令和5年3月31日)へ、「成田山奉納番付」の画像使用を許可 (6/29)
- ・コーナー展示「印旛沼風景今昔の紹介」(令和4年9月1日～15日：印西市文化ホール、9月16日～30日：印西サザンプラザ)へ、「成田土産道中名所 うす井印旛沼の景」「印旛沼開発絵図面」「絵葉書 甚兵衛の渡場」「現在の印旛沼」の画像使用を許可 (7/7、8/26)
- ・BS松竹東急「号外！日本史スクープ砲」(令和4年9月4日放送)へ、「定飛脚問屋東京仲間出張所之図」の画像使用を許可 (8/4)
- ・物流博物館特別展「運ぶのりものでたどるNXグループの歴史」(令和4年11月3日～令和5年1月22日)へ、「定飛脚問屋東京仲間出張所之図」の部分画像のパネル展示、図録掲載を許可 (9/6)
- ・第31回日本医学会総会2023東京 ホームページ「医学史展」(令和4年10月中旬～令和5年10月中旬)へ、「順天堂療治定(外科治療代金表)」の画像掲載を許可 (8月)
- ・TBS「情報7 days ニュースキャスター」(令和4年11月5日放送)へ、「初代市川團十郎の図」の画像使用を許可 (11/5)
- ・福沢諭吉記念慶応義塾史展示館企画展「福沢諭吉と「非暴力」—学問のすゝめ150年—」(令和4年10月17日～12月17日)へ、当館保管分長沼区有文書「漁具誓約書」「慶応義塾生徒来客諸費簿」「東京年始味噌漬控」を貸出。
- ・早稲田大学坪内博士記念演劇博物館『エンパクブック』vol.119(令和5年3月中旬発行予定)へ、「源氏模様娘雛形の図」の画像掲載を許可 (12/1)

- ・リクルート「スタディサプリ高校・大学受験講座（日本史探求）」の会員制オンライン教材および紙媒体教材へ、「火消千組の図」の画像使用を許可（3/2）
- ・成田市三里塚御料牧場記念館へ、パンフレット「三里塚」成田鉄道沿線各所案内」を貸出（令和5年4月1日～令和6年3月31日）
- ・市川市広報紙「広報いちかわ」（令和5年5月6日発行）へ、「富士三十六景 鴻之台と沓川」の画像掲載を許可（3/29）

5. 博物館実習

9月7日から14日まで博物館実習を実施した。受け入れた学生の内訳は以下の通りである。

川村学園女子大学	2名
京都美術工芸大学	1名
大正大学	2名
日本女子大学	1名
立教大学	1名

6. 寄贈図書（令和4年4月～令和5年3月）

博物館だより	173～176	岩手県立博物館
年報	49	仙台市博物館
館蔵名品図録	改訂版	同上
史の杜	12	東北大学東北アジア研究センター
年報	令和3年度	東北歴史博物館
研究紀要	23・24	同上
館報	16号	稲敷市歴史民俗資料館
常州江戸崎不動院	図録	同上
神栖市近世史料集	第一集	人見家文書二
		神栖市歴史民俗資料館
泉石	15	古河歴史博物館
年報	30	同上
海へ	図録	上高津貝塚ふるさと歴史の広場
懐かしの水浜電車と大洗の観光	図録	
		大洗町幕末と明治の博物館
明治天皇と春日部	図録	春日部市郷土資料館
かわはく	72・73	埼玉県立川の博物館
紀要	22	同上
郷土博物館だより	48	戸田市立郷土博物館
研究紀要	30	同上
戸田市関係新聞記事索引（平成Ⅳ）		同上
館報	50号	市立市川考古博物館
遺伝子からみた古代のイヌ	図録	同上
館報	令和3年度	市立市川歴史博物館

上総広常とその時代		一宮町教育委員会
年報	23	伊能忠敬記念館
印西の歴史	13	印西市
令和2年度印西市内遺跡発掘調査報告書		
		印西市教育委員会
研究紀要	4	印西市立印旛歴史民俗資料館
柏市史	沼南町史	通史編
令和2年度柏市市内遺跡発掘調査報告書		同上
平成22・23・26年度柏市市内遺跡発掘調査報告書		同上
		同上
柏市南原遺跡（第5次・第7次）	宿連寺遺跡	
（第5次）	苅込台遺跡（第8次）	同上
柏市山ノ田遺跡（第6次）		同上
柏市笹原遺跡（第26次）		同上
柏市浅間山遺跡（第16次）		
		株式会社地域文化財研究所
柏市呼塚遺跡（第24次）		同上
柏市八反目台遺跡（第14次）		同上
郷土資料館だより	59～62	
		鎌ヶ谷市郷土資料館
香取	121・122	香取神宮崇敬会
令和3年度君津市内遺跡発掘調査報告書		
		君津市教育委員会
上湯江遺跡Ⅴ		同上
三直中郷遺跡第5地点		同上
年報	42・43	君津市立久留里城址資料館
NEWS LETTER	12	国立歴史民俗博物館
中世武士団	図録	同上
加耶	図録	同上
要覧	2022年度	同上
研究報告	233～236	同上
REKIHAKU	5～8	同上
令和3年度佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書		
		佐倉市教育委員会
佐倉市六崎外出遺跡（第23・26次）	発掘調査報告書	同上
		同上
里見氏研究	創刊号	里見氏研究会
わたしたちの酒々井町		酒々井町教育委員会
史跡墨古沢遺跡整備基本計画書		同上
アーカイブズ・ニュース	25・26	
		淑徳大学アーカイブス
いま、読み解かれる『大念寺日鑑』	図録	同上
年報	19	白井市郷土資料館
新四国巡礼	図録	同上
かおりだより	6	同上

令和3年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書	袖ヶ浦市教育委員会	成田市の文化財 第53集	成田市教育委員会
富士山 図録	袖ヶ浦市郷土博物館	成田市宗吾二丁目遺跡	有限会社原史文化研究所
館報 96	館山市立博物館	年報・紀要 15号	野田市郷土博物館・市民会館
よみがえる近代安房の風景 図録	同上	令和3年度船橋市内遺跡発掘調査報告書	船橋市教育委員会
房総の文化財 61	千葉県教育振興財団	平成25・26年度船橋市市費単独事業遺跡発掘調査報告書	同上
研究連絡誌 85・86	同上	平成17年度船橋市市費単独事業遺跡発掘調査報告書	同上
文化財センター年報 47	同上	上ホシ遺跡 (14)	同上
会報 115~116	千葉県文化財保護協会	中野木台遺跡 (24)	同上
千葉文華 46	同上	宮本台遺跡 (81)	同上
ちばの博物館 146	千葉県博物館協会	印内台遺跡群 (80)	同上
MUSEUM ちば 47	同上	宮前遺跡 (6)	同上
千葉県の文書館 28	千葉県文書館	年報 令和3年度	船橋市郷土資料館
市原市分目岡田(利)家文書目録 4	同上	みゅーじあむ・船橋 18・19	同上
令和3年度SSH研究開発実施報告書(第2年次)	千葉県立長生高等学校	紀要 28	船橋市立飛ノ台史跡公園博物館
令和3年度実践資料集(第6集)	同上	紀要 29号	松戸市立博物館
令和3年度指定SSH生徒課題研究論文集	同上	令和2年度松戸市内遺跡発掘調査報告書	松戸市教育委員会
関東塩ものがたり 図録	千葉県立関宿城博物館	大六天遺跡 第2・3地点発掘調査報告書	同上
みる かつる つくる 49	千葉県立美術館	池ノ台遺跡 第5地点 発掘調査報告書	同上
千葉いまむかし 35	千葉市教育委員会	小金城跡 第23地点発掘調査報告書	株式会社地域文化研究所
ちば市史編さん便り 28・29	千葉市史編さん担当	公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅷ	八千代市教育委員会
研究紀要 28	千葉市立郷土博物館	上ノ山遺跡d地点	同上
千葉氏・禅宗・東アジア 講演録	千葉市・千葉大学	市内遺跡等発掘調査報告書	同上
千葉大学ユーラシア言語文化論集 24	千葉大学ユーラシア言語文化論講座	埋やちよ 45	同上
宮内庁下総御料牧場と千葉県営鉄道多古・八街線	千葉日報社	財やちよ 6	同上
令和2年度富里市内遺跡発掘調査報告書	富里市教育委員会	前山清一郎 図録	八街市郷土資料館
富里市文化財保存活用地域計画 概要版 富里市	流山市教育委員会	写真にみる八街の150年	同上
恩田家文書目録(2)	流山市立博物館	写真に見る四街道の歴史	四街道市
年報 44	同上	令和2年度四街道市内遺跡発掘調査報告書	四街道市教育委員会
博物館だより 1~3	同上	羊と日本人	山本佳典
不三戸貝塚第2地点埋蔵文化財発掘調査報告書	習志野市教育委員会	接收刀剣 図録	板橋区立郷土資料館
屋敷貝塚K地点埋蔵文化財発掘調査報告書	同上	いたばしの古民家 図録	同上
法談 68号	成田山法談会	第20回 歴史民俗研究	板橋区教育委員会
令和2年度成田市内遺跡発掘調査報告書	成田市教育委員会	美術館ニュース 288~292	サントリー美術館
成田市史研究 46	同上	紀要 20号	相撲博物館
		京成らいいん 737~744	京成電鉄

紀要 13 江戸東京博物館
 博物館学芸員課程年報 23号 桜美林大学
 博物館だより 134
 葛飾区郷土と天文の博物館
 東京低地に人が住み始めた頃 図録 同上
 博物館だより 2022 春号 同上
 百万塔 173・174 紙の博物館
 博物館だより 82・83 家具の博物館
 風流絵本四方屏風 平木浮世絵財団
 開館記念図録 福沢諭吉記念慶応義塾史展示館
 研究報告 第39輯 国学院大学博物館
 博物館学紀要 46・47
 国学院大学博物館学研究室
 国学院大学博物館学研究 2 同上
 俊朝寺寺域遺跡発掘調査報告書
 国際文化財株式会社
 日本の郷土玩具 IV 昭和女子大学光葉博物館
 けやき 26 大正大学
 大東文化大学博物館学講座だより 16
 大東文化大学博物館学講座運営委員会
 年報 37 たばこと塩の博物館
 画像史料解析センター通信 96~99
 東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター
 研究紀要 32 東京大学史料編纂所
 所報 57号 同上
 金鯪叢書 49 徳川黎明会
 日展ニュース 181~183 日展
 新工芸ニュース 88~89 日本新工芸家連盟
 あるむぜお 140~143 府中市郷土の森博物館
 運ぶのりものでたどる150年のあゆみ 図録
 物流博物館
 伝統と文化 46 ポーラ伝統文化振興財団
 自由民権 35 町田市立自由民権資料館
 民権ボックス 34 石阪昌孝の生涯 同上
 三井美術文化史論集 15 三井記念美術館
 愛宕下武家屋敷群陸奥一関藩田村家屋敷跡
 発掘調査報告書II
 大成エンジニアリング株式会社
 湖雲寺跡遺跡 株式会社パスコ
 相模小田原藩大久保家屋敷跡遺跡発掘調査報告書
 同上
 筑後久留米藩有馬家屋敷跡遺跡発掘調査報告書
 同上
 港区指定文化財 令和2年度 港区教育委員会
 但馬出石藩仙石家屋敷跡遺跡発掘調査報告書
 -本文編- 同上
 港区No170遺跡発掘調査報告書 同上
 歴史館ニュース 11 港区立郷土歴史館
 館報 2 同上
 薩摩鹿兒島藩島津家屋敷跡第3遺跡発掘調査報告書
 トキオ文化財株式会社
 紀要 45号 早稲田大学演劇博物館
 ニュースレター 12 同上
 史観 187 早稲田大学史学会
 日本の文化史 4 相撲 山川出版社
 上総広常 戎光祥出版
 立教大学の誕生 図録 立教大学展示館
 江戸楽 162・164
 エー・アール・ティー株式会社
 鎌倉 131・132 鎌倉文化研究会
 民具マンスリー 649~660
 神奈川大学日本常民文化研究所
 歴史と民俗 39 同上
 友の会会報 192~196 熱川バナナワニ園研究室
 自然と文化 45 平塚市博物館
 年報 45 同上
 資料集 46 横須賀市自然・人文博物館
 研究報告 66 同上
 開港のひろば 154 横浜開港資料館
 紀要 38号 同上
 資料館だより 233~236 沼津市歴史民俗資料館
 あなたと博物館 240~242 松本市立博物館
 美術館だより 463~474 石川県立美術館
 名古屋成田山 815~826 成田山大聖寺
 研究紀要 38・39 滋賀県立琵琶湖文化館
 文化財修理報告書 20 楽浪文化財修理所
 博物館学年報 53
 同志社大学博物館学芸員課程
 京都府埋蔵文化財情報 142・143
 京都府埋蔵文化財調査研究センター
 京都の遺跡 12 同上
 館報 53 住友史料館
 年報 令和3年度 大阪歴史博物館
 近代のいんばん手 橋本忠之
 紀要 30 園田学園女子大学近松研究所
 民俗博物館だより 113 奈良県立民俗博物館
 私がつらえた大和の民俗 図録 同上
 博物館だより 27 和歌山県立博物館
 館報 35 天理参考館

霊宝館だより	138～141	高野山霊宝館
子規博だより	153～156	松山市立子規記念博物館
萩	103～106	山口県立萩美術館・浦上記念館
くまはく	NEWS LETTER 7・8	熊本市立熊本博物館
館報	34	同上
熊楽伝承 図録		同上
REIMEI	40-1～40-4	鹿児島県歴史・美術センター黎明館

7. 令和5年度の展示予定

展示場所は成田山平和大塔1階霊光殿。企画展示の概要および展示期間は以下の通り。新型コロナウイルスの感染拡大によって中止・延期の場合があります。

【霊光殿】

収蔵品展一旗一 3/3 - 4/16

旗の素材、大きさ、形、色、図案はさまざまである。当館収蔵の旗に記された文字や模様を読み解きながら、旗の持つ意味や時代の変遷を考える。

弘法大師と成田山 4/22 - 6/18

弘法大師誕生1250年に際し、真言宗の開祖空海（弘法大師）と成田山の関りを紹介する。

霊光館看板コレクション 6/24 - 9/3

当館収蔵品の中から特に商業看板にフォーカスし、成田山の参道や成田市の歴史を伝える資料として紹介する。

昭和13年の成田山 9/9 - 12/17

昭和13年（1938）の成田山開基一千年祭に成田参光協会が開催した写真展には千点余の応募があった。写真はモノクロであるが、ファインダー越しの当時の成田山を紹介する。

霊光館所蔵絵画展 1/1 - 3/3

霊光館の絵画コレクションの中から、近年新たに収蔵したものも含めた資料を紹介する。

8. 研究報告

日本歴史地理研究会の研究旅行

矢嶋 毅之

明治から昭和時代前期にかけて活躍した歴史地理学者喜田貞吉は、明治4年（1871）5月に阿波国那賀郡櫛淵村（現徳島県小松島市）に生まれた。地元の学校で学んだ後、第三高等学校（現京都大学）を経て、同26年に東京大学の前身である東京帝国大学分科大学に入学し歴史学を学んだ。

明治34年に文部省（現文部科学省）に入り、同36年に始まった国定教科書の編纂に携わった。しかし、明治44年に喜田が小学校の歴史教科書に南北朝期の北朝・南朝を並べて記述したことで、南北朝正閏論が沸き起こり、混乱を招いたとして責任をとり休職処分となった。

その後、京都帝国大学（現京都大学）教授、東北帝国大学（現東北大学）講師などを歴任した。喜田の研究領域は考古学や民俗学の資料を幅広く活用し、古代史研究の進展に大きく寄与した。主著に『国史之教育』『法隆寺論攷』などがある。昭和14年（1939）7月、宮城県仙台市で、その生涯を終えた。

簡単に喜田の生涯を振り返ったが、彼の生涯には様々な出会いがあった。ここではその一端を紹介する。明治32年4月、喜田は有志とはかり、歴史地理を研究するために日本歴史地理研究会を結成した。同年10月に機関雑誌『歴史地理』を創刊し、歴史地理をはじめ史学、地理学に関する論考を掲載した。同会は明治39年に日本歴史地理学会に改称し、会員も徐々に増加し貴重な研究成果が発表された。喜田は明治29年7月に帝大を卒業したが、就職できなかった。その後帝大大学院に進むと、帝大の恩師村上专精から村上が校長に就いていた真宗東京中学の講師を紹介された。さらに真言宗新義派大学林予備校教務主任に就いた。これが縁となって、明治31年9月真言宗新義派の成田山新勝寺が経営する成田英漢義塾の国史担当の講師を依頼された。成田英漢義塾は現在の成田高等学校の前身にあたり、明治20年10月に創立した。塾主は当時の成田山の住職三池照鳳であった。照鳳師は成田近隣に中等教育機関がないことを憂い、私塾の創設を決意した。同塾の修業年限は3ヶ



喜田貞吉

年とし、修業科目は英語・漢文・数学を中心とした。塾長には千葉中学校（現県立千葉高）の教員であった宮村三多を招聘した。宮村は大分県中津の士族出身で、同郷の福沢諭吉が創設した慶應義塾で学んだ後千葉中学校で教鞭をとっていた。

喜田が赴任する少し前から、成田英漢義塾は尋常中学校への組織変更を文部省に申請していた。そして明治31年10月7日に認可が下り、私立成田中学校が創立した。同時に喜田は校長に就き、校主は明治27年に三池のあと成田山の住職となった石川照勤が就いた。

照勤師は明治2年生まれで、住職就任時は25歳であった。同31年3月に欧米諸国の事情を学ぶために出立、約2年間にわたって宗教・教育などの分野について各国の状況を具に学んだ。喜田が成田英漢義塾および成田中学校に籍を置いたのは明治32年8月までであったから、喜田はこの間照勤師との面識はなかった。

なお喜田が成田中学校在職中に日本歴史地理研究会の会員であった鶴飼嘉一郎と新町徳兵衛、和田玉一（元成田英漢義塾の塾長）がいたことを付け加えておく。

照勤師が欧米視察を終えて、帰国したのが明治33年3月であった。照勤師不在中、学校運営に尽力したのは三橋金太郎であった。三橋は門前町で東屋旅館を営みつつ、成田町の町会議

員・町長を務め、成田山および町の発展に尽力した。

明治33年6月、成田中学校は文部大臣樺山資紀をはじめとする名士200余名を招いて新校舎の落成式を行った。喜田貞吉も招かれ、このとき照勤師と対面を果たしたものと考えられる。対面を果たした喜田は同月に、照勤師に発足間もない日本歴史地理研究会の賛成員への就任を願い出ている。同会は発足したものの資金不足に直面し、喜田は照勤師に援助を求めた。照勤師は快諾し、7月発行の『歴史地理』に賛成員として名を連ねている。賛成員は規約4条に「学識名望ある人士」と定められている。

喜田は成田中学校を退いた後、前述したように文部省に入省し、民間教科書の検定作業に従事した。ところが翌年秋には教科書疑獄事件が発生し、小学校における民間教科書の使用が禁止され、同36年4月に国定教科書の制作が決定した。喜田は国定教科書の編纂にあたった。

この間、喜田は自身の研究活動に邁進し、『歴史地理』に投稿を続けた。同時に顧問として日本歴史地理研究会の運営にも尽くした。

ところで日本歴史地理研究会の規約（第6条）に「臨時に談話会大会又は旅行を举行し及び歴史地理に関する資料著書等を出版すべし」とある。出版については、前述した雑誌とは別に会員の研究の成果物と考えられる。「臨時に談話会大会」というのは、一般の人々に向けた口頭発表と考えられる。そして旅行というのは、会員による調査旅行の類であろう。しかし、この旅行は資金不足を理由に実現出来なかった。そこで会員有志で協議した結果、千葉県北総地方を候補とし、照勤師に協力を求めることにした。本来ならば喜田が直に面会し頼みたかったと思われるが、多忙で果たせず、書簡を認め、会の委員に託した。書簡には日付が記されていないが、書簡冒頭の挨拶文に「余寒今以て烈しく」とあること、さらに「創立以来已に八年」とあることから明治39年3月頃と推定した。

喜田の書簡を携えて照勤師に面会を求めたのは、同封の名刺から、幹事伊木寿一・柴謙太郎・藤田明であった。喜田らが計画した旅行は少数人数で、宿泊先である成田で通俗学術講演会の開催を考えていた。この願い出を照勤師は了承したようで、7月発行の『歴史地理』で成

田方面への旅行計画が進行中であることが記されている。そして10月20日、最初の日本歴史地理研究会の研究旅行が実現した。この旅行の記録は『歴史地理』20号に同行した花見青眠（幹事・花見朔己）が「成田及香取遠征記」と題して掲載されている。

参加者は喜田を含めた14名、そのうち岡部精一の娘も同行した。旅程は両国駅を出発し成田に宿泊、宿屋は成田中学校の理事三橋金太郎が経営する東屋旅館であった。2日目は佐原町（現香取市）で伊能忠敬関連資料の実見、その後佐原を出発し途中滑川町（現成田市）の横穴石室を見学している。遠征記には、同行した画家石島古城の挿画もあり、参加者が旅行を楽しんでいる様子が描かれている。

紙面の都合上、成田での様子をかいつまんで紹介する。当日の会場は、成田尋常小学校（現成田小学校）の講堂で、正門付近には駄菓子店などが立ち並び、さながら縁日のごとく人々が集まっていた。事前に開催予告のチラシが作成されたこともあって多くの聴衆が集まった。

最初の講演には喜田貞吉が登壇し「地名の変遷について」という題名で1時間ほど話した。次いで深沢徳吉が法隆寺、藤田明が琉球、岡部精一が一休和尚をテーマに講演した。講演の合間に幻燈会を催すなど工夫され観衆は大いに満足した。講演会は成田図書館（現成田山仏教図書館）の主事高津親義をはじめ成田小学校の職員も運営を支えた。最大の支援者たる照勤師は東京に出張とのことで不在であった。

かくして日本歴史地理研究会の念願であった研究旅行は参加者大満足で終えたのである。



東屋旅館での様子（「成田及香取遠征記」より）

【参考文献】

- ・喜田貞吉編『還暦記念六十年之回顧』
- ・『創立六十周年記念成田高等学校史』
- ・川合一郎「喜田貞吉の歴史地理学」（『人文地理』第63巻5号）

〔資料紹介〕市川團十郎関係資料

猪岡 萌葉

当館では、令和4年10月の十三代目市川團十郎白猿襲名を記念し、令和5年1月1日～2月12日、「成田屋市川團十郎の書と絵画」を開催した（会場：成田山書道美術館）。本展では、代々の團十郎の役者としての一面だけでなく、同時代の一級文化人としての側面にスポットを当てる意図のもと、成田山霊光館および成田山仏教図書館所蔵資料と、市川團十郎家所蔵資料の中から、代々の團十郎の自筆資料を中心に紹介した。

本展の準備に際し、新たに収集した資料や、以前から所蔵していたものでも改めて調査し明らかになった点がある。そこで本稿では、特に七代目團十郎（1791-1859）と八代目團十郎（1823-54）に関わる資料のうち、新収蔵資料やこれまで詳しく取り上げる機会の少なかった資料を中心に、資料紹介を行う。なお一部の資料については既に成田山だより『智光』等でも紹介済みで、一部内容に重複するところがあるが、本稿で改めて詳細に紹介したい。

・「七代目市川團十郎 狸絵」【図1】

秋亭画、七代目市川團十郎賛

嘉永5年（1852）～安政5年（1858）

狸の絵を手掛けた「秋亭」は、上方の絵師・田中秋亭（生没年未詳）に該当するか。制作年は未詳だが、七代目は生涯で4度上方に上っているため、そのいずれかの折の作品と考えられる。画賛を添える七代目の落款が、晩年に用いられた「寿海老人子福者白猿」であることから、七代目の4度目にして最後の上坂である嘉永5年冬から安政5年の間に描かれたものであろう。画賛の川柳「たぬきよさとをねのねおとさよきぬた（狸よさ遠音の音音小夜砧）」は回文となっており、狸が腹鼓を打つ音を秋の夜長の砧打ちの音になぞらえている。賛、そして狸のまるまるとした姿ともに遊び心に満ちている。

・「七代目市川團十郎画賛幅」【図2】

七代目市川團十郎 年未詳

近年新たに収蔵した資料である。木の枝にぶら下がった手長猿が、水面に映った月を取ろう

と手を伸ばしている。これは仏典の『摩訶僧祇律』にみられる「猿猴捉月」の故事に由来するもので、猿は結局月を掴めずに水の中に落ちて溺れ死んでしまう。身の程をわきまえない大望を抱き失敗することの喩えで、七代目が用いた俳名「白猿」に掛けた画題選択である。

白猿の俳名は五代目團十郎から用いられたもので、二代目團十郎の俳名「栢菴」にちなむが、そこには父祖に対する謙遜の意図が込められている。すなわち、猿は人間に毛が三筋足りないことから、猿の字を用いたものである。

画賛の狂歌「つがもないおや玉など、呼子鳥猿にしてをけさるにしておけ」は、文政12年（1829）、七代目の芝居を見に来た京の歌人・賀茂季鷹（1754-1841）が七代目を親玉と褒め讃えて贈った歌に対する返歌であり、画題、賛ともに七代目の謙遜がうかがえる。

・「七代目市川團十郎 扇面」【図3】

七代目市川團十郎 天保12年（1841）頃

こちらも近年新たに収蔵した資料である。画賛の狂歌「暑サにもまけずに来たる甲斐ありや不二の山見て人の山見る」は、七代目の著作『遊行やまざる』に同じものが収められている。天保12年に版行された『遊行やまざる』は全文が七代目の自筆に基づく版本で、甲斐、信濃、遠江を旅した際の紀行文である。当該の狂歌は同年6月に七代目が甲斐の亀屋座で芝居に出た際に詠まれたもので、「甲斐」「不二の山（＝富士山）」といったご当地の言葉を用い、江戸の花形役者の芝居を観に集った黒山の人だかりを想起させている。扇面の制作年は不明だが、甲斐での芝居興行と同時期のものかと考えたい。

・「八代目市川團十郎 扇面」【図4】

八代目市川團十郎

弘化～嘉永頃（1844-54）

近年の新収蔵資料。金地の上にとろとろ花の絵をあしらい、「親に仕へるもおぼつかなきに 御褒物を下し玉はりしありがたさ ことし竹枝のちからはなけれども」と記されている。

八代目は、父・七代目が江戸を追放された際、毎朝精進茶断ちをし、蔵前の成田山御旅宿

に日参して父の無事の赦免を祈った。そのため北町奉行所から役者として初となる孝子表彰を受けたが、「親に仕へるもおぼつかなき」「御褒物を下し玉はりし」の文言から、その頃のものと考えられる。

川柳の「枝のちからはなけれども」は父親の不在による後ろ盾のない心許なさを表すものか。そうは言っても、扇面の金地は晴れがましい印象を添えている。



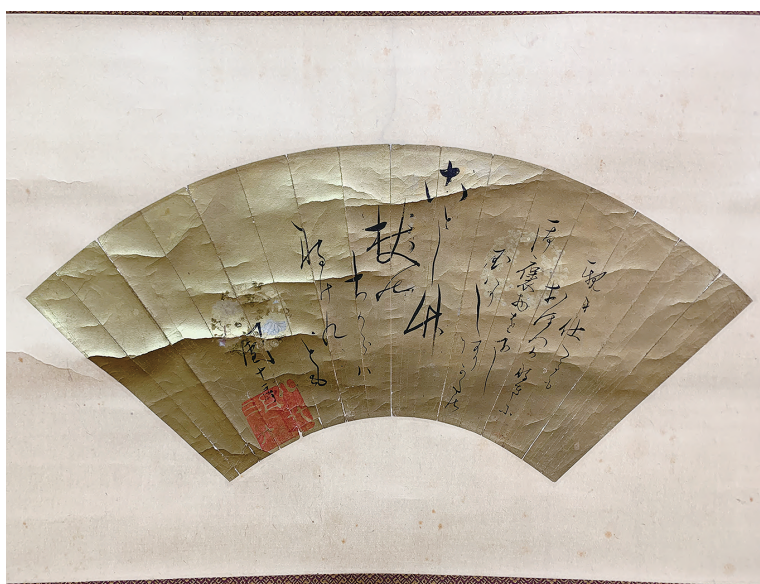
【図1】「七代目市川團十郎 狸絵」



【図2】「七代目市川團十郎画賛幅」



【図3】「七代目市川團十郎 扇面」



【図4】「八代目市川團十郎 扇面」

成田山書道美術館



概要

当館は、書道文化向上と芸術普及の発展に資することを目的として、平成4年（1992）11月1日に開館。公益財団法人成田山文化財団を母体とする書の総合美術館で、成田山新勝寺に参詣される多くの方々の篤志により活動している。

収蔵品は、近現代の書作品を中心に古筆や古写経、中国の拓本なども充実しており、現在6,000余点を数える。展示は、あらゆる角度から書が楽しめるよう、毎回新鮮な展示を心掛けながら、年6～7回のペースで企画展を開催。

立地は、東京ドーム約3.5個分の面積を有する広大な日本庭園、成田山公園の一角に位置するため、四季折々の自然美と調和のとれた美術館となっており、作品とともに空間も楽しむことができる。

令和4年度事業報告

職員数 11名
 兼任 2名（館長、課長）
 常勤 6名（男2・女4）
 非常勤 3名（嘱託1・パート2）

1. 展示事業

令和4年度、次の展示事業を行った。

展示1・2階展示会場

- ・収蔵優品展 小坂奇石と江口大象
第38回成田山全国競書展
- ・田近憲三蒐集拓本と近代日本の書
- ・生誕140年中野越南とその周辺
- ・近代千葉の書/千葉県書道協会役員展
- ・江戸の書画－うつすしごと
- ・十三代目市川團十郎白猿襲名記念
成田屋市川團十郎の書と絵画/生誕100年の書家
- ・尾崎邑鵬展

展覧会名称／期間	展示場／作品数	入館者数／開館日数
収蔵優品展 小坂奇石と江口大象 第38回成田山全国競書展 4月1日（金）～4月17日（日）	1階／42点・2階／39点 1階／優秀作品333点	1,511名／39日 686名／15日
収蔵優品展 田近憲三蒐集拓本と近代日本の書 4月23日（土）～6月19日（日）	1・2階／114点	1,579名／50日
生誕140年中野越南とその周辺 6月25日（土）～8月21日（日）	1・2階／113点	986名／44日
近代千葉の書/千葉県書道協会役員展 8月27日（土）～10月16日（日）	1・2階／174点	1,309名／44日
江戸の書画－うつすしごと 10月22日（土）～12月18日（日）	1・2階／102点	6,536名／50日
十三代目市川團十郎白猿襲名記念 成田屋市川團十郎の書と絵画/ 生誕100年の書家 1月1日（日）～2月12日（日）	1・2階／104点	3,507名／38日
尾崎邑鵬展 2月18日（土）～3月26日（日）	1・2階／97点	1,191名/23日

展示要旨

収蔵優品展 小坂奇石と江口大象 第38回成田山全国競書展

この展示会は、平成27年に寄贈された小坂奇石と江口大象作品の受贈記念展として開催された。本来であれば3年度の開催を予定していたが、江口氏逝去にともない、小坂氏歿後30年にあたる4年度の開催となった。書家として初めて日本芸術院恩賜賞を受賞した小坂奇石は、昭和32年に書道研究「璞社」を設立し、関西を中心に戦後の書壇を牽引した存在として知られる。また、江口大象は「璞社」の二代目会長として、その跡を継いだ。師弟ともに文才に長け、昭和42年創刊『書源』誌を中心に、色褪せない書の魅力を今に伝えている。

今回の展示では両氏の作品だけでなく、璞社および徳島県立文学書道館の協力のもと、図書資料や江口氏の絶筆を筆頭に各種臨書の折帖や文房具などの比較展示を行うことで、書作品の特徴や時代性を味わいながら鑑賞できるように配慮した。全体を通して、戦後から現代にかけての作品形式の変遷もたどることができる内容は、当館の収蔵品の特性を物語る内容でもあった。

SNS上では、江口氏が大阪市立美術館の壁面にあわせて制作した大作への反響が特に大きかった。当館2階の展示会場の壁面にギリギリに収まる内容で、質量ともに見応えがあった。さらに、特別展示室では「書道と印刷」と題して、明治期から昭和中期にかけての印刷資料を特集展示した。戦争によって多くの文化財が失われている今、印刷によって伝えられる複製に注目した。



展示風景

収蔵優品展

田近憲三蒐集拓本と近代日本の書

当館の代表的コレクションの一つである田近拓本と、近代の碑学派隆盛の時代に日本の書を牽引した人々の書を組み合わせた展示会は、新型コロナの影響を受ける中、約1600名弱の入館者があった。結果から見ると、前回開催の2016年の展示会と比べ、100余名の見学者増と着実に田近拓本の知名度が上がっていることが感じられた。高校、大学生の団体見学が多くあったことも明るい材料である。実際に教科書の底本に採用されている拓本の現物を間近で見学することは、鑑賞教育に資するところが大きいのではないかと感じる。今後の反響の広がり期待したい。日本人が古くから愛好してきた書がよく「難しい」と表現されること背景には、日本人が漢文化に対して関心を低下させたことも一因に挙げられるだろう。一朝一夕に解決する問題ではないが、課題としては認識せざるを得ない。田近拓本には歴史史料としても価値を評価できるものが多く、田近拓本を通じて思想史や文化面からもコレクションを回顧することで、より深化した書の考察が出来るのではないかと感じている。本展の展示会告知のSNSでは、この辺りも意識した発信を行った。



展示風景

生誕140年中野越南とその周辺

当館では平成22年の「歿後三十年中野越南展」以来12年ぶりに中野越南展を開催した。越南生誕140年を記念した本展では、前回展以降に寄贈された作品を含め、館蔵の越南作品を編年的に展示し、あわせて越南と交遊のあった作家や越南の影響を受けた人々の作品も紹介した。改めて越南の書の魅力を再認識していただ

くとともに、現在まで続く越南の精神を受け継ぐ作家たちの活躍も紹介することができた。残念ながら7、8月の猛暑の時期と新型コロナウイルス第7波とが重なり入館者数は今一つ伸び悩んでしまった。しかし、漢字仮名問わず書家として活躍される先生方が多く参観され、作家に対する関心の高さがうかがえた。

中野越南は当館の近現代作家のコレクションの柱となるひとりである。今後もこれらのコレクションを活用した展覧会を考えていきたい。



展示風景

近代千葉の書／千葉県書道協会役員展

千葉県書道協会との共催となる本展は、協会役員120名の出品により、多くの書風が交わる千葉の書の魅力にあふれた展覧会となった。新型コロナの影響で講演会が企画できなかったことは心残りであったが、会場に足繁く通う来館者が絶えなかったことは救いであった。今回の当館の企画、近代千葉の書展には多くの来館者から「新鮮な印象を受ける」との感想をいただいた。今までの千葉県書道協会を牽引した先人たちの顕彰する展覧会とは異なる時代感に関心が集まったからではないだろうか。

近現代において千葉は、東京の後背地としての役割から多くの人々が交わるスポットとなった。明治維新期、高度経済成長期といった時代の波によって複層的に形成されてきた千葉の書を俯瞰するには時代ごとの検証が一つの鍵になるだろう。その意味でもこの展覧会が新たな視点へのきっかけとなることを期待したい。また、この企画は近代をテーマとしていたので、幕末から明治期に成田山と関係した多くの文人墨客のコーナーを設けることが出来た。美術館、博物館がいまだ黎明であった時代からいち早く文化の集積地となった新勝寺の歴史的意義

を回顧するにも良い機会であったと考えている。



展示風景

江戸の書画－うつすしごと

成田山書道美術館の収蔵品は、日本の書、特に江戸時代後半期から現代までの作品が充実しておりこれにおいては全国でもトップレベルにあると自負するところである。一括寄贈によってコレクションを形成することの多い現代作家の作品や、田近コレクション・松井コレクションの拓本、松崎コレクションの古筆と古写経のような蒐集家のコレクションを、大系のまま受け入れたものなどが当館の収蔵品の核となっていることは間違いない。

しかし一方で、江戸の唐様や明治大正期の書のように、一点一点時間をかけて受け入れてきたコレクションは、他館にはない当館の活動の特徴づける役割を果たしている。今回の展覧会では、江戸時代の書と絵画における「うつし」に注目し、書画に通底する江戸の人びとの「真をみつめる姿勢」の一端を明らかにすべく展示



展示風景

を構成した。必ずしも著名な作家や作品ばかりとは言えないものだが作品にはそれぞれに個性があり、その個性を「うつし」というテーマで関連づけることができたものとする。会期中、紅葉まつりが開催されたことから、多くの来館者に展覧会を愉しんでもらうことができた。書に加えて絵画の出品も多かったこともその要因の一つかもしれない。また、専門家の来観も比較的多く見られた。

こうした展示は、地味ではあるが、当館の特色を印象づけるためには欠かせないものであろう。展覧会図録は生活の友社発行の一般書として刊行しその費用を抑えた。それでも館内における頒布には苦心する。しかしながら、成田山書道美術館の主体的な活動として、こうした成果を広く社会に周知する必要があるものとする。

十三代目市川團十郎白猿襲名記念
成田屋市川團十郎の書と絵画／
生誕100年の書家

成田山新勝寺とことのほか関係の深い、歴代の市川團十郎の書画に焦点をあてた展覧会は新型コロナウイルスの影響により2年半以上の延期を経てようやく開催することが出来た。

2階展示場で開催した「成田屋市川團十郎の書と絵画」展は姉妹館である成田山霊光館が担当し、霊光殿、仏教図書館でも関連の展覧会を開催した。

当館は1階展示場で「生誕100年の書家」展を担当した。多くの文人と交遊し、文墨の世界に浸った團十郎の書画は新たな目線で観る展覧会として取材も多く、好評を得たと考えている。会場では若い世代を含めた幅広い層の入館者があったことが印象的であった。生誕100年の書家展では現代の書をつくり上げた同世代の



展示風景

作家を一堂に回顧することが出来、戦後の書を再考する機会になったのではないかと考えている。それぞれの展覧会を目的に来館された見学者からもう一方の展覧会についても良い感想を得ることも多く、相乗効果も実感できた。東京オリンピック開催にあわせ江戸文化の粋を国内外に紹介するという当初の計画は残念ながら断念せざるを得なかったが、仏教図書館を含めた成田山文化財団の底力と可能性は示すことが出来たと考えている。普段美術品として当館で保存公開している収蔵品も、いずれ成田山の史料としての角度から考察する必要もあるだろう。

2. 入館者数

	月別	入館者（開館日数）	1日平均
4年	4月	993名（22日）	45名
	5月	695名（26日）	26名
	6月	678名（22日）	30名
	7月	582名（27日）	21名
	8月	384名（16日）	24名
	9月	654名（26日）	25名
	10月	918名（22日）	41名
	11月	5,532名（26日）	212名
	12月	643名（16日）	40名
5年	1月	2,613名（27日）	96名
	2月	1,671名（20日）	83名
	3月	1,191名（23日）	51名
4年度合計		16,552名（272日）	60名

3. 普及事業

<展示広報>

- ・展示において、ポスター・案内はがき・展示目録を作成。各所への配布・掲示により、集客力の向上を図った。
- ・江戸の書画展図録を一書籍として発行。
- ・尾崎邑鵬展図録を3,300部発行。
- ・案内リーフレット（日本語・英語・中国語）を成田空港や空港周辺ホテルなど近隣施設に配架。
- ・新勝寺企画課と連携し、報道機関および関係施設へのプレスリリースを実施。

＜成田山文化財団年報の発行＞

「令和3年度 成田山文化財団年報 第13号」を3館（成田山仏教図書館・成田山霊光館・成田山書道美術館）合同で制作。昨年度よりダウンロード方式に変更。

＜ホームページ＞

充実したホームページの公開に努めるとともにSNSの即応性を利用した素早い広報（情報発信）により、書道愛好家への興味関心を促す。また、一昨年度、休館中に開設した「学芸員のブログ」は好評につき、継続して閲覧を可能とした。

URL：<https://www.naritashodo.jp/>



HP



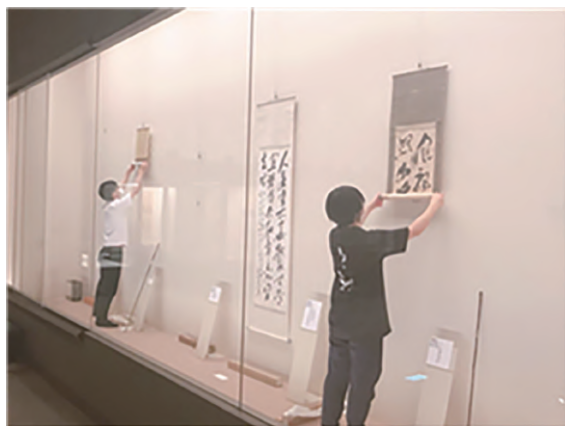
Facebook



Twitter

＜博物館実習生の受け入れ＞

本年度は、前後期に振り分けて次の大学より8名を受け入れた。
大東文化大学 4名（8/12～8/18）、筑波大学 4名（11/15～11/20）



実習風景

＜成田高校付属小学校との連携＞

当館学芸員（谷本）が付属小学校5・6年生の書道授業を担当（6、7、12、1月の24時間）。なお、授業で制作された書作品は、当館会議室にて「書き初め展」として展示発表された。



展示風景

＜奈良市杉岡華邨書道美術館との連携＞

昨年度より3年間継続で貸出開催している松崎コレクション展の2回目。また、当館学芸員（田村）を講師として書道講座を実施。
演題「『穂高』の制作と修復」

4月23日（土）14時～



＜研修見学＞

教育機関との連携授業および書道関係などの団体見学で、学芸員により展示解説を行った。

・大東文化大学一行 86名 5月15、29日



大東文化大学の鑑賞授業風景

- ・成田国際高校一行 105名 6月14～17日
- ・大東文化大学書道部一行 23名 6月19日
- ・筑波大学一行 28名 7月17日
- ・日本古文書学会一行 12名 7月23日
- ・箱根町文化スポーツ財団一行 24名 9月7日
- ・二松学舎大学松苓会千葉県支部一行 20名 10月25日
- ・早大書道会拡大同朋会一行 16名 10月27日
- ・埼玉県東書道連盟一行 14名 10月30日
- ・成田市生涯大学院一行 30名 11月30日
- ・佐倉市KANAMEあらたST一行 11名 12月3日
- ・T-LIFE一行 66名 12月6、13、15日
- ・千葉県高校書道部会一行 60名 12月14日
- ・日本習字教育財団一行 10名 2月21日

<紅葉まつりイベント>

新型コロナウイルスの影響により令和2、3年と中止していた協賛イベント「クラフト展－手仕事いろいろ」を研修室にて開催。

11/19,20 入館者数 3,721名（入館無料）



クラフト展風景

<会議室・研修室の貸出>

当館では、2階会議室及び研修室を地域文化の発展を目的に書道だけでなく芸術全般に関する発表や創作の場として提供している。

令和4年度の主な利用団体および個人

- ・大東文化大学書道学科の集中講義
- ・千葉県高校書道部会による書道研修
- ・成田高校附属小学校書き初め展
- ・爽風会書道教室
- ・玉手かな書道教室
- ・成田写仏会
- ・渡貫書道教室
- ・いには俳句会
- ・不動の庭で遊ぶ会（俳句）

- ・かつらぎ俳句会
- ・その他講演会・ドラマ撮影等 6件

4. 収蔵資料（4年3月31日現在）

- ・作品数 6,151件
- ・図書数 8,859冊

【寄贈作品・資料】

次の方々より、貴重な作品をご寄贈頂きました。ここに、厚くお礼申し上げます。

作品・資料名	寄贈者
・中村旭波 作品 2件	森比佐乃氏
・桑原翠芳 作品 1件	太田文子氏
・黒田賢一 作品 3件	黒田賢一氏
・稲垣菘圃 作品 1件	稲垣弘子氏
・吉川蕉仙 作品 14件	吉川蕉仙氏
・廣畑筑州 作品他4件	廣畑筑州氏
・貞政少登 作品 1件	平野白鳥氏
・上田桑鳩 作品 9件	柳川黄谷氏
・徳野大空 作品 1件	徳野恵美子氏
・牛窪梧十 作品他4件	牛窪梧十氏
・西川春洞 作品 1件	中野育子氏
・尾崎邑鵬 作品他50件	尾崎邑鵬氏

【貸出作品】

- ・奈良市杉岡華邨書道美術館「松崎コレクションの古筆と古写経展②」へ古筆、古写経作品19件
- ・セントラルミュージアム「第五十回日本の書展特別展」へ 青山杉雨作品他 10件
- ・岡山県立美術館「生誕100年高木聖鶴展」へ 高木聖鶴作品1件
- ・研友社「第35回研友社展」へ 田中鳳柳作品 1件
- ・徳島県立文学書道館「開館20周年記念書道特別展」へ 石飛博光作品 8件
- ・東京都美術館「第70回朝聞書展」へ 松井如流作品他 74件
- ・山梨県立美術館「印章－刻まれた歴史と文化展」へ 独立性易作品他 8件
- ・東京都美術館「第60回藍筍会書作展 今関脩竹遺墨展」へ 今関脩竹作品 30件
- ・日本橋高島屋「土橋靖子展（仮称）」へ 土橋靖子作品 2件
- ・袖ヶ浦市郷土博物館「傘寿記念 辻元大雲回顧展」へ 辻元大雲作品 1件

【寄贈図書】

個人や団体など各方面の方々より、図書資料のご寄贈がありました。ここにご芳名を記し、お礼申し上げます。

図書名	寄贈者
ICOM-DRMC 年次大会報告書 2021	
ICOM-DRMC 2021 実行委員会	
一東 542-553	一東書道会
出光美術館研究紀要 27	出光美術館
出光美術館 館報 194	同上
稲敷市立歴史民俗資料館報 16	稲敷市立歴史民俗資料館
常務江戸崎不動院 天海ここに顕現す	同上
伊能忠敬記念館年報 23	伊能忠敬記念館
日本巖手県立博物館蔵 太田夢庵旧蔵古代璽印	岩手大学
風雅好古－太田夢庵の金石収蔵・研究と文人の世界	岩手大学平泉文化研究センター
新潟県文人研究 25	越佐文人研究会
NHK放送博物館だより 68	NHK放送博物館
黄檗文華 141	黄檗山萬福寺文華殿
博物館学芸員課程年報 23	桜美林大学
大倉集古館年報 R1, 2年	度大倉集古館
美をつくし 197	大阪市立美術館
回瀾 70年を迎えて	回瀾書道会
崑山会報 47,48	崑山会
道風 道風記念館だより 58-65	春日井市道風記念館
御碑彫刻師 宮 亀年	嘉津山清氏
香取 121,122	香取神宮崇敬会
神奈川近代文学館 156-159	
	神奈川県立近代文学館
神奈川の書 すべてを魅せる百人	
	神奈川新聞社
神奈川近代文学館年報 R3年度	
	神奈川文学振興会
鎌ヶ谷市郷土資料館だより 59-62	
	鎌ヶ谷市郷土資料館
港区立郷土歴史館館報 2	港区立郷土歴史館
百万塔 173,174	紙の博物館
中国書画コレクションの時空	
	関西中国書画コレクション研究会
第10回寄鶴文社書展作品集	寄鶴文社
日本近世美術研究 4	北島古美術研究所
視覚の現場 6	きょうと視覚文化振興財団
須田記念 視覚の現場 7	同上
古文化研究 21, (黒川古文化研究所紀要)	
	黒川古文化研究所

漢字の象形文字の賞玩	黒川古文化研究所
日本芸術院会員就任記念 黒田賢一書作集	黒田賢一氏
漢字とかなの調べ	芸術新聞社
謙慎書道会展役員作品図録	謙慎書道会
生誕110年記念 青山杉雨展	謙慎書道会西部展実行委員会
若木書法 21	國學院大學若木書法会
研究紀要 10	五島美術館
佐久市立近代美術館NEWS 1	佐久市立近代美術館
王欽古-京から来て、佐野に住んだ何画家	佐野市立吉澤記念美術館
生誕100年記念 高木聖鶴展	山陽新聞社
下妻ふるさと博物館年報 17	下妻市ふるさと博物館
修美 144	修美社
山の白兔伝説の謎に迫る	城光寺照進氏
書海 1172-1183	書海社
第61回書象展作品集	書象会
書星 914-925	書星会
第70回記念 書星会	書星会
書声 781-791	書声会
創立75周年記念 書道芸術院史	書道芸術院
日本書法 54,55	書道芸術社
書道日本 839-849	書道日本社
市立市川考古博物館館報 48,49	市立市川考古博物館
市立市川歴史博物館館報 R2年度	市立市川歴史博物館
たいわー語り伝える白井の歴史ー 37	白井市郷土史の会
新思考巡礼～人々の祈りの旅～白井市郷土博物館	同上
白井市郷土資料館年報 19	同上
新千葉タイムス 338-348	新千葉タイムス
美術の窓 464-474	生活の友社
日本の書展 第50回記念 全国書美術振興会	全国書美術振興会
五十年の歩み	全国書美術振興会
第50回日本の書展 日本の書展	全国書美術振興会
全書芸 861-872	全日本書芸文化院
書教 765-775	全日本書道教育協会
第35回全日本篆刻連盟展	全日本篆刻連盟
全日本美術 815-822	全日本美術新聞社
創玄 130	創玄書道会
伊藤参州コレクション展	蒼泉会
袖ヶ浦市郷土博物館開館40周年記念企画展	
富士山	袖ヶ浦市郷土博物館

けやき 26 (大正大学学芸員課程年報)
 大正大学
 大東文化大学博物館学講座だより 16
 大東文化大学
 大東書学 22 大東文化大学書道学会
 大東書道研究 29 大東文化大学書道研究所
 桐墨 13 同上
 大東書道 627-637 同上
 令和3年度 文学研究科書道学専攻修士論文・
 博士論文・修了作品研究集録
 大東文化大学大学院
 美をつむぐ 源氏物語
 -めぐり逢ひける えには深しな- 高木厚人氏
 第50回記念 千葉硯心会書展 竹之内饒僊氏
 よみがえる近代安房の風景-川名写真館の世界-
 館山市立博物館
 ミュージアム発見伝 96 同上

 千葉県文化芸術推進基本計画及概要版
 千葉県環境生活部スポーツ・文化局文化振興課
 千葉県書道協会会報 88,89 千葉県書道協会
 しいむじな 73-76,房総の山のフィールド・
 ミュージアム ニュースレター
 千葉県立中央博物館
 千葉県立美術館年報 47 千葉県立美術館
 みるかたるつくる(千葉県立美術館ARTNEWS) 49
 同上
 しおさい 196-199,千葉県立美術館友の会だより)
 千葉県立美術館友の会
 歿後200年 亜欧堂田善 千葉市美術館
 中日会報 204-207 中部日本書道会
 書道 II 東京書籍
 TOBUNKEN NEWS 77-79 東京文化財研究所
 東京文化財研究所 2022 同上
 美術史学 43
 東北大学大学院文学研究科美術史学講座
 葵 123,124 徳川美術館
 ことのは 77-78 徳島県立文学書道館
 水脈 18 同上
 驥山館所蔵 小坂奇石の名品 同上
 生誕100年 今井凌雪-理知と思索の書 同上
 独立広報 131,132 独立書人団
 殿村藍田展 殿村藍田展実行委員会
 尾崎邑鵬と門人展 奈良市杉岡華邨書道美術館
 大阪教育大学で学んだ書家群像 同上
 名古屋成田山 814~825
 成田山名古屋別院大聖寺
 法談 68 成田山法談会

成田市の文化財 53-旧大栄町の地名-
 成田市教育委員会
 成田市史研究 46 同上
 なりたの教育 令和4年度 同上
 會津八一名品50選 新潟市會津八一記念館
 日展ニュース 181-183 日展
 第9回 日展作品集 同上
 日本近代文学館 307-312 日本近代文学館
 日本博開催に係る効果検証報告書
 日本藝術文化振興会
 学術研究助成成果論文集 7
 日本習字教育財団
 書之美 242~253 日本書学研究会
 伝統と創意 第76回日本書芸院展作品集
 日本書芸院
 会員所属団体資料 日本書道文化協会
 井茂圭洞 かなの美韻 白梅帖 美術新聞社
 美術年鑑 令和5年度版 同上
 美じょん新報 271-281 ビジョン企画出版社
 豊道春海顕彰会会報 17,18 豊道春海顕彰会
 みなもと 491,492 璞社
 書源 100,200,300,400,500,600,650,659-662 同上
 墨芳 815~826 墨芳会
 詩文書の魅力 金子鷗亭と中野北溟
 北海道立函館美術館
 墨華 613~624 墨華書道研究会
 第44回墨華書道展作品集 76,77 同上
 友の会会報 131 松戸市立博物館
 三井美術文化史論集 15 三井記念美術館
 やちまたの偉人 前山清一郎
 八街市郷土資料館
 市制施行30周年記念誌 写真に見る八街の150年
 八街市郷土資料館
 八千代市立郷土博物館報 28
 八千代市立郷土博物館
 由源 641~652 由源社
 吉川蕉仙の書 II 吉川蕉仙の書展実行委員会
 万年筆の旅 18,19 吉村昭記念文学館
 吉村昭「高熱隧道」-黒部の難工事を描く-
 同上
 読売書法会会報 78 読売書法会
 第60回記念 藍筍会書作展 藍筍会
 藍筍会書作展60回記念 今関脩竹遺墨展 同上

5. 調査・研究

- ・館蔵作品及び各展覧会開催に伴う調査。
- ・成田山新勝寺および周辺財団で所蔵する美術資料の調査。
- ・学校や地域との連携に関する調査・研究。
- ・書に関する広汎な研究。

6. その他

<売店について>

館内受付協の売店（ミュージアムショップ）では、文房四宝・各種書道用具をはじめ書籍や展覧会図録などを販売。受付に申し出ることにより売店のみの利用も可能。



令和5年度事業予定表

1. 展示事業

展 覧 会 名 及 び 概 要		開 催 期 間
1	<p>○弘法大師ご誕生1250年記念 成田山の美術</p> <p>成田山には江戸時代初期の1655（明暦元）年に建立された旧本堂の薬師堂をはじめとする諸堂が遺されている。今回は中でも1858（安政5）年に建立された重要文化財の釈迦堂に注目し、安政の本堂の荘厳（しょうごん）のために施された狩野一信の複数の大作を一堂に公開する。</p>	5年 4月22日（土） ～6月18日（日）
2	<p>○収蔵優品展 大きな字</p> <p>「大きな字」をテーマに作品を展示。古典における大字から現代の壁面芸術としての大字書までを一堂に展覧することで、時代によって変化をしてきた「大きな字」への概念や変わらない魅力、圧倒される存在感に迫る。</p>	7月1日（土） ～8月20日（日）
3	<p>○収蔵優品選 幕末明治の書</p> <p>封建制度が崩壊し、日本の社会構造が大きく変わった幕末維新期はあらゆる分野で革命的な変化が起こった。書においても中国から新たに流入した書に対する新しい考え方の影響を受け、新たな書を模索する過渡期に突入した。今日の書のルーツともいえる幕末明治期の書作品をたどることで、この時代の日本人が目指した書の姿を再考察する。</p>	8月26日（土） ～10月15日（日）
4	<p>○生誕100年 小山やす子展</p> <p>平成を代表する仮名作家の一人として活躍した小山やす子の生誕100年を記念した展覧会。古典と現代とが融合した格調高い華やかな書は今日でも愛好者が多い。毎日芸術賞を受賞した伊勢物語屏風をはじめとする受賞作、複数の卷子や帖をまとめ一具とした大作などを一堂に公開し、改めて書業を回顧する。</p>	10月21日（土） ～12月17日（日）
5	<p>○新春特別展 書の紙</p> <p>書に用いる紙は様々な加工が施されている。より書きやすくするために加工されたり、染めたり箔を蒔いたり装飾が施されたり、書の表現に大きな影響を与えている。本展では近現代の料紙制作に注目し、紙の特性や装飾の技法、加工方法に迫る。</p>	6年 1月1日（日） ～2月18日（日）
6	<p>○収蔵優品展 篆・隸・楷・行・草・仮名－書体をめぐる書の表現－</p> <p>書体は歴史とともに変化してきた。篆書や隸書、変体仮名など今日では読みにくいものでも書の表現の一端として使われている。本展ではそれぞれの書体の歴史を知ると同時にその表現の特質について考える。</p>	2月24日（土） ～4月21日（日）

※展覧会名、開催期間については、変更となる場合があります。

2. 普及事業

- ・展示に関連する講演会や解説会の開催。
教育や福祉機関などとの連携。
- ・書道や芸術の啓蒙活動のため、研修室や会議室などの施設貸出。
- ・展示に係わる、ポスター・案内はがき・陳列目録の発行および発送。

3. 調査・研究

- ・館蔵作品及び各展覧会開催に伴う調査。
- ・成田山新勝寺および周辺財団で所蔵する美術資料の調査。
- ・学校や地域との連携に関する調査・研究。
- ・書に関する広汎な研究。

寄附金のお願い

成田山書道美術館は、平成4年11月に開館し主に近・現代の書作品を中心に収集し、それらを基に展示普及事業を行い、平成25年3月には、これまでの書道文化振興に資する役割が評価され、成田山文化財団を構成する成田山仏教図書館・成田山霊光館とともに、公益財団法人に認定されました。

今後も老朽化した施設整備を図りつつ、皆様のご期待に添えるよう、魅力ある美術館として活動してまいりますので、温かいご支援をお願いいたします。

【寄附を必要としている事業】

建物・施設整備事業

調査・研究事業

その他、成田山書道美術館の事業運営に係る事業

【寄附単位】

法人 1口 50,000円

個人 1口 10,000円

【特典】

- 1口につき招待券（個人10枚、法人50枚）を進呈いたします。
- 成田山文化財団報にご芳名を掲載し、進呈いたします。※掲載の許可をいただいた方のみ
- ご寄附が10口以上の法人及び個人には感謝状を贈呈いたします。

【申込方法】

所定の「寄附金申込書」(ホームページよりダウンロード)にご記入の上、下記宛てにお申込みください。

【申込受付】

〒286-0023 千葉県成田市成田640

公益財団法人 成田山書道美術館

総務課 寄附金担当

TEL.0476-24-0774 FAX 0476-23-2218

【払込方法】

払込取扱金融機関にて下記の銀行口座への払込をお願いいたします。なお、振込手数料のご負担をお願いいたします。

京葉銀行 成田支店 普通 No.5883361

ナリタサンショドウビジュツカン カンチャウタナカ ショウコウ

成田山書道美術館 館長 田中照広

現金でのご寄附は、直接ご持参ください。

【税制の優遇】

当館は、税法上の優遇措置対象となる「公益財団法人」となっており、所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。確定申告時に当館が発行する寄附金受領証明書を税務署に提出してください。詳細については、お近くの税務署にお問い合わせください。

【個人情報の取扱い】

成田山書道美術館が取得した皆様の個人情報は、行政庁への申請書、ご寄附のお願い、当館のお知らせなどの送付以外に利用したり、本人の同意がなく第三者に提供することはありません。

また、取得した個人情報は漏洩・損失・紛失・改ざん・不正利用などを防止するため、法令、指針に従って必要な措置を講じ、個人情報を適切に管理いたします。

【注意事項】

お申込み予定日より10日以内にご入金のない場合、お申し込みはキャンセルとさせていただきます。

理由の如何に問わず寄附後の払い戻しはいたしません。

令和4年度寄附者

- 稲垣弘子氏
- 中野博氏
- 吉川蕉仙氏
- 尾崎邑鵬氏
- 藍筍会

上記の方々より貴重なご寄附を頂きました。紙面に掲示して、厚く御礼申し上げます。

案内図・利用案内



成田山仏教図書館

開館時間：9時～17時

休館日：月曜日・国民の祝日

毎週火、土曜日を通常開館とし、毎週水、木、金、日曜日は予約閲覧日とし、電話、メール、FAXによるレファランズ、閲覧予約をお受けしております。

交通

- ・JR成田・京成成田 各駅より徒歩15分
- ・京成成田駅より千葉交通バス「成田山門前」下車 徒歩5分

位置：成田山大本堂左手、聖徳太子堂下

○住所・連絡

〒286-0024 千葉県成田市田町312番地
電話 0476-22-0407 Fax 0476-24-4465

成田山霊光館

開館時間：8時30分～16時30分

休館日：月曜日・国民の祝日

展示は、成田山平和大塔1階霊光殿にて開催（6時～16時・無料）。

交通

- ・JR成田・京成成田 各駅より徒歩20分
- ・京成成田駅より千葉交通バス「成田山門前」下車 徒歩15分

位置：成田山平和大塔の後方

○住所・連絡

〒286-0021 千葉県成田市土屋238番地
電話 0476-22-0234 Fax 0476-22-0242

成田山書道美術館

開館時間：9時～16時（入館は15時30分まで）

休館日：月曜日

（祝日の場合は開館し、翌平日が休館）

入館料：大人 500円（300円）

高・大学生 300円（200円）

中学生以下無料

（※カッコ内料金は団体20名以上）

交通

- ・JR成田・京成成田 各駅より徒歩25分
- ・京成成田駅より千葉交通バス「成田山門前」下車 徒歩10分

位置：成田山公園内、三ノ池の畔

○位置・連絡

〒286-0023 千葉県成田市成田640番地
電話 0476-24-0774 Fax 0476-23-2218

令和4年度 成田山文化財団年報 第14号

発行日 令和5年(2023)4月28日
編集発行 公益財団法人 成田山文化財団
連絡先 成田山書道美術館
〒286-0023 成田市成田640
Tel 0476 (24) 0774
